令和４年度　自己評価報告書

令和５年３月

岐阜県立衛生専門学校

１　本校の教育理念　　資料１

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

２　令和４年度組織（所属）目標及び目標項目、目標値と実績

１）質の高い教育と教職員の育成　　資料１１～１３、１９～２２

（１）教育方法の発展

①研究授業の実施

・研究授業については、４学科が取り組むことができた。

②学科を超えた授業参観の実施（1 回以上／年）

・学科を超えた授業参観や合同授業を３学科が実施できた。

（２）キャリアラダー

①研修の受講

・全教員が自己のキャリア別目標の達成を意識した研修計画を立案し、新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン研修となったが、概ね計画通りに受講できた。

（３）研究能力の向上

①研究授業や教材研究の成果の発表（職場研修、学会等）

・２学科が研究に取り組み、学会発表、専門雑誌への掲載を行うことができた。

２）入学生確保の推進　　資料９～１０

（１）令和５年度志願者数（　）は R4 年度

・助産学科　　**目標：31 名**　実績：40 名（30 名）
・第一看護学科　**目標：90 名**　実績：100 名（66 名）
・第二看護学科　**目標：48 名**　実績：36 名（30 名）
・歯科技工学科　**目標：20 名**　実績：6 名（13 名）
・歯科衛生学科　**目標：30 名**　実績：28 名（27 名）

※過去３年間の平均値を基準（歯科技工学科、歯科衛生学科は定員数）

（２）令和５年度入学者数

・助産学科　　**目標：12 名以上（6 割）**　実績：11 名（12 名）
・第一看護学科　**目標：32 名以上（8 割）**　実績：38 名（29 名）
・第二看護学科　**目標：32 名以上（8 割）**　実績：25 名（22 名）
・歯科技工学科　**目標：12 名以上（6 割）**　実績：6 名（12 名）
・歯科衛生学科　**目標：20 名以上（前年値）**実績：18 名（20 名）

①高等学校訪問・・・・・・・・・・新型コロナウイルス感染拡大により中止
②准看護師養成所訪問・・・・・・・６校に訪問
③オープンキャンパス・・・・・・・新型コロナウイルス感染拡大により中止
　　代替策として、学科ごとの学校説明会を開催した。

助産学科：３回、第一看護学科：４回、
第二看護学科：７回、
歯科技工学科：６回、歯科衛生学科：６回
（歯科系は④の説明会とは別の方法でも実施）

④歯科系学科学校説明会の開催・・・歯科技工学科：６回、歯科衛生学科：８回
⑤進学ガイダンス・・・・・・・・・・２４件参加
⑥出身校への手紙・・・・・・・・・・全学科、令和３年３月・令和４年３月卒業生に送付
⑦入学生アンケートの実施・・・・・入学生全員（休学者除く）９３名に依頼（全員回答）

３）防犯・防災に係る危機管理体制の整備　　**資料２４**

（１）危機管理体制整備

①防災訓練の計画立案と実践

・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、校内でシェイクアウト訓練と消防訓練を実施した。

②防犯、防災備品等の予算化

・防犯、防災備品等については、保管状況を点検し、不足や更新分を予算要求している。

（２）備蓄食材の整備

①職員、学生共に３日分を目安

・外部講師等の防災ヘルメットの設置、職員・学生の飲料水は整備できた。簡易トイレについても確保できた。
・学生の備蓄については、災害時は学校に留めることなく移動等の安全が確認できしだい帰宅させることを想定して必要量を再検討し、各自で１食分を準備させることとした。

３　評価項目の達成及び取り組み状況

１）学校経営　　**資料１～８**

評　価　項　目	評価点
・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表しているか。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。	４．６

○評価点：５　よい　４　ややよい　３　普通　２　やや不十分　１　不十分

・年度初めに中期目標（令和４年～令和７年）に基づき、令和４年度の組織目標、目標値を策定し、全職員にメール配信により周知した。また、職員会議、学科会議でもその内容を確認した。
・職員による学校評価を８月と 12 月に実施し、学校のビジョンや組織目標等の学校経営方針は、全職員が理解していることを確認できた。また、中間評価結果についても共有し、後期の学校運営に反映させた。また、学生による学校評価を 12 月に実施した。
・学校関係者評価委員会は、第１回は９月に開催し、令和３年度学校評価結果を報告し、委員から多くの意見をいただいた。意見はとりまとめ、改善・対応策とともに第２回学校関係者評価委員会（11 月書面会議）で報告し、今後の教育活動、学校運営に繋げるようにした。

○課題

学校関係者評価の時期が翌年中頃であるため、外部の意見が後期以降にしか反映できない。

○改善策

・学校関係者評価委員会の開催時期を早め、できるだけ早期に学校運営に反映できるようにする。

２）学科運営　　**資料１１～１２**

評　価　項　目	評価点
・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	４．２

・各学科、科目ごとの授業評価を実施し、その分析結果を次年度の教育課程に繋げることができた。

・卒業年度の学生を対象に、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく学習内容や到達状況、方法等に関するアンケートを実施し、卒業時の学生の到達状況の把握やカリキュラム評価を行うことができた。

・助産学科では、新カリキュラムの運用が開始した。新規科目については、強化したい内容に合わせ講師の選択を行い、学生からは、「学習が深まった」等ねらい通りの評価が得られており、科目設定や講師選択においてよい結果が得られた。

・第一看護学科でも新カリキュラムの運用が開始した。分野、科目を再構築し、教員がチームに分かれ授業研究をし、後期の授業計画、実施に繋げることができた。また、一部科目は他学科の教員も含めて授業参観し、授業の検討・評価を行うことができた。

・第二看護学科では、令和５年度のカリキュラム改正に向けて、小グループワーキングを行いながら、新カリキュラムを構築することができた。これまでのカリキュラムの評価結果を踏まえ、学生の到達度が低かった内容の学習が深められるように科目を設定した。

・歯科技工学科では、外部講師との意見交換会の内容を踏まえて、学習内容・方法の改善に取り組んだ。特に医療職業人としての態度や姿勢、倫理観を学ぶ教育を検討、実施することができた。

・歯科衛生学科では、看護系学科の授業参観や合同授業などに参加し、授業方法や学生支援について検討した。また、外部の研修を積極的に受講し、教員のスキルアップに取り組んだ。

・学生から要望の多い時間割の早期配布については、１か月以上前の配布に努めたが、外部講師等

との日程調整に時間を要し、目標の到達には至らなかった。早期に日程調整を行うなど配布時期を意識して作成する。

・授業については、新型コロナウイルス感染症拡大により対面での実施が難しい場合もあったが、内容に応じてＩＣＴを活用したオンラインに変更する等して、概ね計画通りに実施することができた。

・臨地実習については、概ね学習目標の到達はできたが、現地でのケア等の実施経験が少なくなったことにより、昨年度同様コミュニケーション能力等の技術面の習得に課題が残った。

○課題

・学生が求める時間割の早期配布に対応できていない。

・看護系の新カリキュラム運用は、助産学科、第一看護学科は令和４年度、第二看護学科は令和５年度開始となるため、それぞれが構築した新カリキュラムの評価が必要となる。

・臨地実習の期間や方法に制約を受けると、卒業時の技術到達度が不足する懸念がある。

○改善策

・時間割を１か月以上前に配布できるように意識して作成する。

・感染症拡大等で実習に制約を受けた場合でも、目標到達できるような教育方法や教材の工夫等の代替策を平時より考えておく。

３）入学・卒業対策　　**資料９～１０、１３**

評　価　項　目	評価点
・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国試の合格者が１００％となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生への支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。	４．４

・人材確保・就業対策部会において、年間計画を立案し活動を行った。

・入学生確保の結果については、第一看護学科のみが目標値を上回ったが、助産学科、第二看護学科、歯科技工学科、歯科衛生学科は目標値を下回った。志願者数については、助産学科、第一看護学科、第二看護学科、歯科衛生学科が目標値を上回っており、学生の学生確保のための取り組みは効果があったと考える。歯科技工学科は志願者数も目標値を下回っており学生確保が困難な状況が続いている。

・学生募集については、学校訪問・オープンキャンパスは中止したが、感染拡大況を見ながら、進路説明会への参加、准看護師養成所への訪問、学科ごとの学校説明会（オンライン含む）を実施できた。また、同窓会の協力により雑誌に本校の案内を掲載する新たな取り組みを行うことができた。

・県内就業率は、助産学科が 42%、第一看護学科が 96%、第二看護学科では 78%、歯科技工学科は 100%、歯科衛生学科は 89%であった。助産学科以外は、概ね８割以上が県内就業であることから一定の目標到達はできたと言える。今年度、助産学科は５割未満と大幅に減少したが、例年に比べ県外出身者の入学生が多かったことが影響したと考える。

・卒業生交流会は今年度も中止した。これまで参加率が低いため、今後の開催にあたっては、案内や返信の方法などの検討が必要である。

・特別入学試験は、今年度も日程を早めて実施した。一部学科の志願者数は増えた。

○課題

・志願者数は２学科、入学者数は１学科で目標値を上回ったが、それ以外の学科では目標値を下回る状況が続いている。

○改善策

・新型コロナウイルス感染症による活動制限は解除されたため、学生確保の活動を積極的に行っていく。また、現役生のみを対象とするのではなく、社会人等で各医療職を目指したい人を幅広く確保するための対策を検討する。

・人材確保・就業対策部会の活動を継続し、ホームページの充実や広報活動により力を入れていく。

・歯科系の県内就業率を上げるために、関係団体との連携を強化する。

・卒業生交流会の参加率を上げるための方法を検討し、卒業生支援の周知、充実を図る。

４）学生生活への支援　　**資料１４～１８**

評　価　項　目	評価点
・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	３．７

・各学科、学生支援体制をつくり、定期的に面談や指導等を行い、教員間で情報共有を行った。特に支援が必要な学生については、定期外にも面談を実施し、必要時、スクールカウンセラーや家族・関係者と連携を図り、きめ細かな対応を行った。

・心身の不安定な学生には、こころの相談室、専門医の受診を勧めた。こころの相談室の利用者は延べ７名（相談者３名）で昨年と比較し大きく減少した。利用者が減少した理由には、申し込みに教員を介することが影響するとも考えられるため、昨年度の課題であった、担任を通さずカウンセリングを受けられる仕組みを検討する。

・学校医については、健康診断の結果、学生の疾病に関する相談、その他、実習時における学生間での医療事故に関する相談などで助言を得ることができた。

・新型コロナウイルス感染症の予防対策としては、感染状況の把握、国、県の方針を確認し、適宜マニュアルの改正を行い、体調不良者への早期対応、感染拡大防止措置、報告等の徹底を図った。また、手指消毒の徹底、ドアノブ等の消毒、部屋の換気等、感染予防対策を学生、職員に徹底したことで、罹患者はあったが、学内や実習施設等の感染拡大はなく、学習に大きな影響を与えることはなかった。

○課題

・様々な問題や課題を抱える学生は増えてきていると推測されるが、こころの相談室の利用者は減少しており、利用しづらい点がある。

○改善策

・担任を介さず、学生が直接申し込みできるボックスを設置し、普段、学生と直接関わらない者がスクールカウンセラーとの調整をはかる。

５）教職員の育成　　資料１９～２２

評　価　項　目	評価点
・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	３．６

・年度初めの業績目標立案時に、キャリア別到達目標を意識して研修（県の職員研修、教育に関する研修）を計画した。多くはオンラインを利用したセミナー受講となったが、各自が目標達成に向けて取り組んだ。また、自己のキャリア形成の確認のために、人事評価時（９月、１月）には、自己評価と教務主任による面談と評価、３月には、校長による面談と評価を実施した。
・新任職員に対しては、例年同様ＯＪＴトレーナーが中心となって支援を行った。定期的にトレーナーや教務主任等が面談を行い、目標や業務内容の調整、到達度の評価を行った。
・臨床実践能力の維持のため、担当領域が変更となった教員２名が病院で実務研修を実施した。
・研究授業は、①学科を越えた授業参観を年１回以上開催することを目標とし、３学科が実施できた。②研究授業への取り組みでは、４学科で科目ごとの授業評価やカリキュラム評価が定着しつつあり、評価の時期や指標についても見直しを図ることができた。
・教員の研究能力向上では、歯科技工学科、歯科衛生学科の教員が外部講師と共同して研究に取り組み、それぞれ「日本歯技 10 月号」、「第 13 回日本歯科衛生教育学会学術大会」に掲載された。看護系学科は、授業参観により授業研究に取り組んだ。これまでは、研修の受講という受動的な取り組みが中心であったが、今年度は、各学科自主的な活動が増えている。

○課題
・授業参観、研究授業がすべての学科では実施できていない。
・研究を全学科では実施できていない。

○改善策
・研究授業、授業参観を積極的かつ計画的に実施していく。
・各学科、授業参観のまとめや検討等から取り組み、研究に慣れる環境づくりから進めていく。

６）管理運営・財政　　資料１４、２４

評　価　項　目	評価点
・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	４．０

・シェイクアウト訓練は実施できたが、消防訓練は感染拡大により校内でしか実施できなかった。避難場所や経路の確認は、４月中に各学科で実施するよう周知した。
・外部講師等の防災ヘルメットの設置、職員・学生の飲料水は整備、簡易トイレは確保できた。

・学生の備蓄については、必要量を再検討し、各自で１食分を準備させることとした。
・ハラスメント防止対策については、「ガイドライン」「方針」などの取り決めが複数あり、一部内容が異なる点もあったため、県立３校で調整を図り、今後、見直したものを周知する。
・学生の意見や要望（新入生と語る会、学生生活実態調査等）を受け、使用機器の点検、破損・不要備品の整備や処分等、速やかに対応した。また、備品整備以外の要望についても、各学科で対応を検討し、学生に説明した。

○課題
・火災や地震を想定した避難訓練（実動）が２年間実施できていない。
・防災備品の整備が不十分である。
○改善策
・職員・学生に向け、定期的に危機管理行動の周知、確認を行う。
・必要な防災備品の点検、整備、更新を計画的に進める。

７）施設設備　　**資料２３～２４**

評　価　項　目	評価点
・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。	３．４

・５か年計画に基づき、備品整備等に取り組んでいる。今年度は、高圧蒸気滅菌器（衛生）、人体解剖模型（看護）、集塵装置（技工）、圧延機（技工）、プロジェクター３台（看護）、パーテーション（全体＝家庭看護実習室）を更新した。
・ＩＣＴ機器の利用拡大のため、委員会を中心に課題解決に向けて取り組んだ。また、デジタル戦略推進課の協力により、ロゴフォームの活用や教育支援システム導入に向けて検討を重ね、地価近々利用できる状況にある。今後の業務改善に大きくつながる。
・図書室の活用促進については、図書司書が中心となって環境を整備している。今年度システム導入が決定したことから、利便性がより向上すると考える。

○課題
・施設設備および教材備品等の老朽化や不足がある。
・ＩＣＴ機器の利用について、ニーズは高いが準備が間に合っていない。
○改善策
・施設設備については、例年同様、職員・学生ともに評価が低い状況であるが、計画的に建物等の改修や備品の更新を行っている。今後も５か年計画に基づき改善に取り組む。
・ＩＣＴ機器については、各学科で具体的な計画を立て、優先度の高いものから整備し、利用の拡充をはかる。

８）社会貢献、地域活動

評　価　項　目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	３．６

・今年度は学校情報を同窓会の協力により地方情報誌の「ＧＩＦＴ」と「キャンパスナビ」に掲載できた。業者からの問い合わせもあり、認知度が上がったことは評価できる。
・学校や職業のＰＲのために、歯科衛生学科は、近隣小学校で出前授業を実施した。また、第一看護学科は、業者の進路ガイダンスを通じて高校で模擬授業を実施し、助産学科は、小学校で「命の授業」を行った。
・地域との関わりは少ないが、臨地実習の新規受け入れを近隣で様々な社会活動を行う施設に依頼したり、出前授業等を通して近隣施設との連携を積極的に図る等、地域に根づいた学校づくりを意識して取り組んでいる。
・医療機関等よりボランティア活動の依頼があれば学生に参加を呼びかけているが、参加希望者は少ない。また、新型コロナウイルス感染拡大中は依頼もなく、行動自粛としたため、学生、職員ともに活動できていない。

○課題
・様々な広報活動に取り組んでいるが、大きな効果は得られていない。
・ボランティア活動への取り組みが少ない。
○改善策
・学校の認知度アップや本校の魅力を発信するために、様々な方法を検討し実施する。
・ボランティアの募集があれば案内する。また、学生自治会へも学生の自主的な活動等の働きかけを行う。

４　組織目標や計画の総合的な評価結果

令和４年度の組織目標や学校運営計画における各評価項目の達成状況については、「１学校経営」「３入学・卒業対策」「４学生生活への支援」において評価点が昨年を上回り、「２学科運営」「６管理運営・財政」「８社会貢献・地域活動」は同じ、「５教職員の育成」「７施設整備」は昨年を下回る結果となった。評価点は、４科目で４．０以上、その他４科目が３．５以上であり、目標は概ね達成できたと評価する。